

パートナーシップ宣誓者の 公的住宅入居が可能に！

2020年10月20日、小金井市でいよいよ「パートナーシップ宣誓制度」が始まり、小金井市に住む多様な性指向と性自認を持つ人々の人権が守られる第一歩になりました。それに対応し、パートナーシップ宣誓をした人達の市営住宅及び高齢者住宅への入居を可能とする条例改正案が可決され、4月以降の募集分より施行となりました。(募集は不定期)

▶詳しくは市のHP「公営住宅等入居資格」を。



市議会傍聴のススメ

(若林/桜町)

市議会の定例会や予算特別決算委員会は、3月、6月、9月、12月にそれぞれ約1か月間開かれ、傍聴できます。スケジュールは市報や市のHPに掲載します。まだ傍聴したことないアナタ！一度傍聴して下さい。初めて傍聴した時、「下手な芝居を見るより、面白い!」と思いました。今はユーチューブの同時中継(録画も)で見られますが、議員席の後ろの傍聴席に人がいることで、議員や市長市職員たちの緊張感が上がると思います。

それにつけても本庁舎の議場は4階でエレベーターなし。足が不自由な人、高齢者は上がっていくのが大変だし、車いすの人はアクセス困難。早く誰もがアクセスできる議場のある新庁舎を作って欲しいです。

市議会HP キッズページ「ようこそ市議会へ!」 知っていますか?

子どもたちに向けたキッズページには、市長とは、市議会議員とは、市議会について～年間スケジュール、市議会の活動は～などが、分かりやすく書かれています。子どもたちに市議会がどんなところなのか、ぜひ興味を持って欲しいです。大人のあなたもぜひ一度見て下さい。知っているようで、知らなかったことを再発見できます。

▶詳しくはこちら。



緊急開催 気候マーチ0422 自治体庁舎前アクション in 小金井。

4月22日に「気候危機・自治体議員の会」の賛同議員6人と市民3人がスタンディングを行いました。次回は次の日時に予定されています。
日時：6/10 12:10~12:40 予定
場所：市役所第二庁舎近辺 連絡先：090-1796-7652 (坂井)

新型コロナウイルスに関する情報

▶ワクチン接種

小金井市の高齢者の第1回目の接種率は32.7% (5/24 現在。5/28 市議会全員協議会資料)。全国平均6.6% (5/23 現在。5/25 NHKニュース) を大きく上回ります。小金井市では医療機関での接種を67%、それ以外を集団接種と設定し、かかりつけ医など身近な医療機関で接種できる体制を整えました。医師会などの尽力と市役所との連携がうまくいったことが接種率の高さにつながったと考えられます。

とはいえ、ワクチン接種にはメリットとデメリットがあり、感染のデメリットとよく考え合わせた上で、自身で接種の判断をすることが大事だと思います。



ワクチンの予約方法・今後の受付スケジュール等

▶市の新支援策

感染の長期化により、事業継続、仕事、収入、住まいなど生活不安や困難も深刻になっています。生活支援、生活保障の充実、事業継続支援、医療機関への補償が必須です。そして地域の連携や支え合いのネットワークが求められています。小金井市独自の事業者支援の申請が始まっています。

こがねい事業者特別支援金新設

申請期間：5/17~7/31
対象：市内に事業所を有する事業者。2020年の事業収入が2019年の事業収入より15%以上減少している事業者。
給付額：1事業者当たり上限10万円



編集後記

引っ越しを機にかなりのものを手放しました。減らさないことには立ち行かず、くじけそうになりながら気力を振り絞りました。もらってくださる方も結構おられ、うれしかったです。今はなんだか心が軽く、すっきりした気持ちです。手放したのは物ではなく執着だったのです。執着を捨てるのにずいぶん時間がかかったものです。25年です。(Y.S)

デザイン/H.S

「市民自治こがねい」とは…

この小金井が、ひとりひとりの人権が尊重され、だれもが生き生き暮らし続けられる町であってほしい、この小金井を自治が息づく町にしたい。そのために市民自らが発信し、行動し、市政のあり方を変え、町づくりを進めていこう—そんな共通の思いをもつ市民たちのあつまりです。

会員を募集しています
&カンパ大歓迎!

- 会費 1口=3000円/年
- 賛助会員 1口=1万円/年
- ニュースカンパ 1口=1000円/年
- 郵便振替 00130-6-352041
市民自治こがねい



市民自治こがねいで検索!

<https://www.sijiko.com>

市民自治こがねい広場

No.105



散歩だより

2021年6月5日発行

編集・発行 市民自治こがねい
〒184-0012
小金井市中町 1-2-47 佐藤気付
TEL: 090-6014-3566
<http://www.sijiko.com/>

「政治が遠いな…」と感じているアナタに

今回の市議会議員選挙では前回(2017年)より上がったものの、決して高いとはいえない投票率。7月には都議会議員選挙を控えた今、小金井での市政への関心の度合いを多角的に見て検証してみることにしました。今号がきっかけで政治への関心や投票率が上がる糸口が見つかることを期待します。

▶小金井市選管による投票率アップの施策、ラッピングカー(選挙広報車)。今回の市議選(2021.3.21)で初登場。でも残念ながら、あまり目にする機会はなかったような。



2021年3月21日投開票が行われた小金井市議会議員選挙の数日後のとある日…。市民の方から「政治と生活の結びつき」への思いが寄せられ、その思いをお聞きしました。以下、市民の方(A)、市民自治こがねい聞き手(B)

A: 小金井の市議選の投票率は高い方か、低い方かどちらでしょう。

B: 今回、期日前投票所が増設されたこともあってか40%はいったようだけど、決して高い数字ではないですね。

A: 市民の半数以上が市政に関心がないってことですよね。本当は、生活と政治は密接しているものだから、自分たちが暮らしやすくなる為にも、選挙投票したり、政治に関心を持って参加して生活に反映させるべきだけど、目の前の自分たちの生活が困らさなければ良いと思ってしまっているのが現状なのでは。政治に期待したところで良くなるとは思えないという諦めもあると思いますが、それでは、この先もずっと同じことの繰り返しですよ。どうすればもっと関心が持てるようになるのでしょうか。

こんな本も出ました

「政治について話そう!」

【著】スウェーデン・市民社会庁(MUSF)
【訳】両角達平・リンデル佐藤良子・齋田いづみ
※一般市販はしていません。



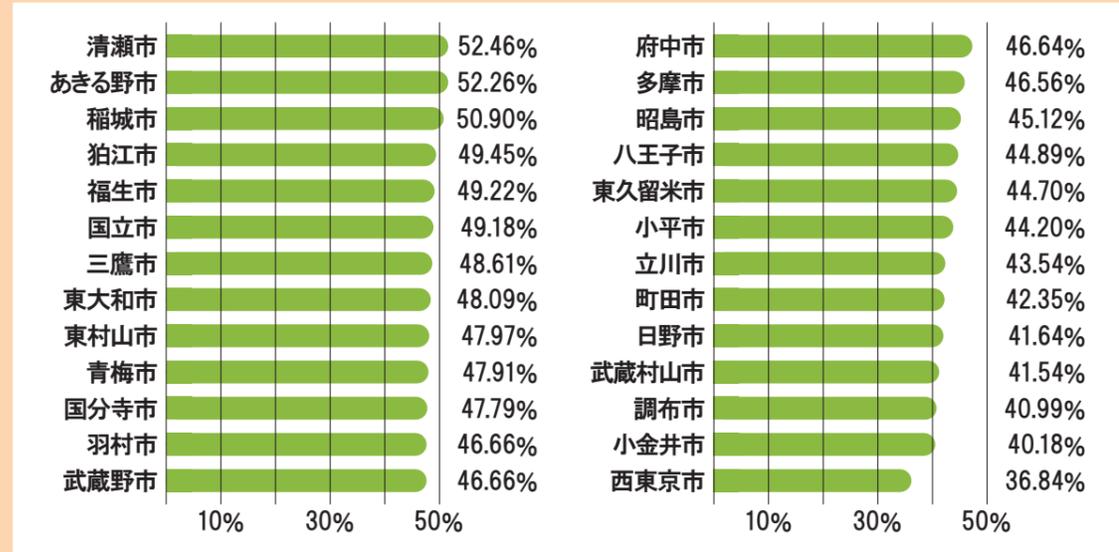
スウェーデンは若者が政治に参加する国として有名です。2018年の総選挙での若者の投票率は約85%。それに大きな役割を果たしているのが主権者教育で、学校には「民主主義を教えるミッション」があるそうです。この本は、スウェーデンの若者政策を担当する、若者・市民社会庁が教職員向けに作成した教材の訳本です。

学校において政治の対話が奨励され、そのための方法を紹介する教材を、若者・市民社会庁が作っているという事にまず驚きました。そして政党を学校に招待できるという事も驚きです。政治の仕組みは日本とはかなり違いますが、民主主義を学校で教えるという考え方は、参考になるのでは?

東京都議会議員選挙
2021年7月4日(日)投票
告示日▼2021年6月25日(金)
小金井選挙区▼定員1名(1人区)
(東京都全体では42選挙区定員127名)

投票率から見る

多摩26市の直近の市議選の投票率。小金井市の40.18%は下から2番目。データは小金井市は2021年のもの。20市が2019年、4市が2018年、1市が2017年のもの。(各市HPより)



4年前の市議選(39.54%)よりアップしたとはいえ、一番身近な市議選で4割の投票率では喜んでいられません。また、実は近隣市と比べても決して高い投票率ではなかったという事実はこれまで抱いていた印象とは真逆のものでした。救いは若い世代の投票率が上がっていること。小金井市議選の年代別投票率の推移(2017年→2021年)を見てみましょう。

10代	31.86% → 38.94%
20代	18.29% → 21.17%
30代	27.95% → 30.95%
40代	37.04% → 39.96%
50代	45.28% → 44.17%
60代	55.20% → 52.42%
70代	62.37% → 58.33%
80代以上	43.54% → 40.24%

特に10代の伸びが著しいです。政治のことを語るのはダサいといった風潮は4、5年くらい前までのこと、最近SNSなどを見てもきちん

と意見表明をする若者が増えています。特にZ世代といわれる18～25歳くらいまでの人たちを中心に安全保障関連法案、共謀罪法案、地球温暖化、コロナ禍下で侵害された学習権と経済的困窮などなどに対し、若者は声をあげています。上の世代は、政治は、彼らの声にきちんと向き合っているのでしょうか？

あいつら、全部ムカつく(おかん)

3月市議選投票日の直前、近所に住む娘の彼氏に「選挙公報読んだ？誰に投票するか考えた？」と聞いたら、表題のセリフが返って来た。そして「白紙で投票する。」誰に投票したいか話し合ってみようかな、と思ったら、「ムカつく」のひと言でバツサリだった。所詮、おっさん、おばさんでムカつく存在なのか。市民派候補なら親しみやすいなんて思ったら甘かった。そもそも政策提言をして選挙活動をする時点で上から目線に見えたりするもんね。若者達、これまでの学校生活で不都合な事があったら先生や大人に話して問題解決に向かった経験がどれだけあっただろう？もし成長期に困り事を対話と民主的な方法で解決した成

功体験が一度もなければ、政治参加なんて絵に描いた餅。今の投票率の低さは、子供時代に、自分の意見が社会をデザインできるといった実感を持たせる事ができない教育の弊害の結果じゃないかと思う。成長期に積極的な意見表明の機会がないのは広義の意味でのネグレクトではないだろうか。そして度重なるネグレクトは人間の心を唯の無関心に追いやる。それでも、「棄権はするな」と娘に連れられて選挙会場へ出向き、ムカつく気持ちを込めて白票を投じる20代青年は、ギリギリ選挙権を行使してる。そこに50代のおばちゃんは何だか愛しさを感じる。

パブリックコメント/ パブコメから見る

昨年度実施されたパブリックコメントの結果をいくつか紹介します。

計画	件数・人数
都市計画マスタープラン(中間報告案)	331件・242人
すこやか保育ビジョン ※(仮称)保育計画から名称変更	107件・16人
第2次地球温暖化対策地域推進計画	23件・4人
(仮称)第6次男女共同参画行動計画	19件・6人 (前回0件・0人)
第3次明日の小金井教育プラン	135件・37人 (前回3件・1人)

市民の関心度は計画によって差があるとはいえ、表の下部2つの計画についてはパブコメを提出した人数(件数)は確実に増えています(表の上部3件については比較対象がない)。

都市マスタープラン(中間報告)については、都市計画道路問題に関心を持っている市民の動きが反映されていると見るのが妥当でしょう。

自分の生活に直結する課題が市の計画(施策)の中に取り入れられていると気づくと、政治も身近なものになるのではないのでしょうか。

計画づくりは市民参画の仕組み、市政に声を届けるもう一つの手段(佐藤/中町)

男女平等推進審議会や(仮称)新福祉会館等建設基本計画策定委員会の委員として計画づくりに関わった。自分としては納得いかない素案提出になってしまったこともあるし、パブコメの意見を受け入れ素案の修正をすべきと求めても通らなかったこともある。事務局から「実現できないような計画では意味がないので、実効性のあるものにしたい」と強調されると、う～んと考え、忸怩たる思いをしたこともあった。

それでも、市民の声を市に直接伝えられる審議会や委員会があり、そこでの議論が記録として残されることは大切である。選挙も市民の意志を示すものとして重要ではあるけれど、もう一つの手段としての計画作りやパブリックコメントなどの市民参画の仕組みを広げていくことも、政治が身近になるために必要ではないだろうか。

生活に身近なまちづくりや教育環境の課題は、施策(政治)に直結している。計画作りや市民参加の委員会などの仕組みを形骸化させないよう、市民が関わり続けていくことが必要なのだと思えて感じる。委員会などの市民公募があった時には、積極的に応募してみたいかがでしょうか。

市民活動から見る

市民活動を示す一つの指標として、小金井市と近隣市のNPO法人の数を調べてみました。(東京都生活文化局NPO法人ポータルサイト【2021年3月更新】より)

「小金井市は市民活動が盛ん」と市外の方から言われることがあります。NPO法人の数と市政への関心度に相関性があるとは限りませんが、NPO法以降は、行政施策をNPO法人に委ねる形も増えています。

市	人口	団体数	
		総数	1万人あたり
武蔵野市	14.7万	96	6.5
府中市	26.0万	94	3.6
三鷹市	18.9万	84	4.4
小金井市	12.2万	71	5.8
小平市	19.4万	67	3.5
国分寺市	12.5万	63	5.0
国立市	7.6万	50	6.5

国などの制度を利用した介護・障がい関係・保育園などの事業所を運営するNPO法人が多いですが、それ以外の施策を担っている次のような法人や団体もあります。

- 芸術文化振興計画に関する「NPO法人アートフルアクション」
- 環境楽習館の管理運営支援団体の「NPO法人こがねい環境ネットワーク」
- 冒険遊び場事業の「NPO法人こがねい子ども遊パーク」

市民団体が議会へ陳情を出すことも多いです。内容を検討することなく陳情をただ受け取るだけという自治体もある中、小金井市は陳情の扱いが丁寧で、議会で検討した上で採択の可否を取り、可決されれば行政も何らかの対応が必要となります。このように、市民団体の動きが施策に反映される場合があることも、市民活動が盛んと言われるゆえんかもしれません。

身近なところで市の施策に関わっている市民や団体がいるということを感じれば、政治が近くなるのかな？

「選挙割」って知っていますか？

これまでもお店独自でやっているところはありましたが、今年3月の市議選で市民ボランティアがもう少し大きな動きとして選挙割を広める活動を始め、そして今回の都議選でももう少し準備期間を設けて、実施店舗への声かけと市民への周知を図り、投票率向上を目指す取り組みにすべく活動しています。名付けて「選挙割こがねい」です。選挙割のやり方は、実施店舗はそれぞれに割引内容を決め、それを告知して投票済証を持参した市民に割引やサービスを提供します。一つの店舗で受けられる割引は1回だけ。でも同じ投票済証で他店舗でサービスを受けることができます。

選挙割を受けたい方は、投票に行ったら必ず立会人に「投票済証をください」と言って証明書ももらってください。言わないともらえません。期日前投票も同様です。投票日当日のみ実施のお店と投票日以降一週間実施の2種類があります。詳しくはインターネットで「選挙割こがねい」で検索してください。ぜひ東京都議会議員選挙の投票に行き選挙割を使ってみましょう。

